

Ver 1.0

オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に基づく
温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクト申請書別紙
モニタリングプラン

プロジェクト名	高知県木質資源エネルギー活用事業
プロジェクト代表事業者名	高知県

提出日 2008年 12月 3日

I. 排出削減量の算定で考慮する温室効果ガス排出活動」(方法論項目3)

ベースライン排出量				
排出活動	排出活動の説明	排出源(設備等)	温室効果ガス	備考
ボイラーでの化石燃料使用	石炭(一般炭)の燃焼	SOC 2号発電設備	CO2	
	オイルコークス(石油コークス)の燃焼	SOC 2号発電設備	CO2	

プロジェクト排出量				
排出活動	排出活動の説明	排出源(設備等)	温室効果ガス	備考
林地残材運搬	林地残材のSOCへのトラック輸送時の軽油消費	トラック	CO2	トラックは5台使用予定
林地残材の破碎、運搬(軽油)	林地残材をチップ化する際の、破碎機及び運搬機運用の軽油消費	SOC 破碎機・運搬機 ・グラブプル ・タブグラインダー ・ホイールローダー	CO2	
林地残材の破碎、運搬(電気)	林地残材をチップ化する際の、破碎機及び運搬機運用の電力消費	SOC 破碎機・運搬機 ・二次破碎機 ・振動篩 ・磁力、風力選別機	CO2	

※ SOC:住友大阪セメント(株)高知工場

※ 欄が足りない場合には追加して記入すること。

II. 算定式（方法論項目4～6）

1. 排出削減量の算定 ※方法論を参照し、以下に排出削減量の算定式及び値を記入する。

◆排出削減量: ERY (tCO₂/年)
 = BE材_{化,y} - (PE運_{化,y} + PE事_{化,y} + PE事_{電,y})
 = 1,010.76 - (9.31 + 9.15 + 14.23)
 = 978.07 [tCO₂/年]

2. ベースライン排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にベースライン排出量の算定式及び値を記入する。

◆ベースライン排出量: BE材_{化,y}
 = BFC材_y × (1 - WCF材_y) × GCV材_y × CEF化 = 1,100[t/年] × (1 - 0.410) × 17.19 [GJ/dry-ton] × 0.0906[tCO₂/GJ]
 = 1,010.76[tCO₂/年]
 ・BFC材_y ボイラーで1年間に使用された林地残材の重量 (ton/年)
 ・WCF材_y ボイラーで使用された林地残材の含水率 (0 < WCF材_y < 1)
 ※ 林地残材の含水率: 2008年上半期搬入林地残材の実測値を使用
 ・GCV材_y ボイラーで使用された林地残材の全乾時の単位発熱量 (GJ/dry-ton)
 ・CEF化 林地残材によって代替された化石燃料のCO₂排出係数 (tCO₂/GJ)

◆単位発熱量: GCV材_y (GJ/dry-ton)
 = GCV材_y (kcal) [kcal/dry-kg] × 0.00419 [MJ/kcal] = 4,105 [kcal/dry-kg] × 0.00419 [MJ/kcal]
 = 17.19 [GJ/dry-ton]
 ・GCV材_y (kcal) ボイラーで使用された林地残材の全乾時の単位発熱量 (kcal/dry-kg)
 ※ 全乾時の単位発熱量: 2008年上半期搬入林地残材の実測値を使用

◆化石燃料の排出係数: CEF化 (tCO₂/GJ)

$$= \frac{\sum_{\text{個燃}_i} (Q_{\text{個燃}_i} [\text{dry-ton}] \times \text{NCV}_{\text{個燃}_i} [\text{GJ/dry-ton}] \times \text{CEF}_{\text{個燃}_i} [\text{tCO}_2/\text{GJ}])}{\sum_{\text{個燃}_i} Q_{\text{個燃}_i} [\text{dry-ton}]}$$

= 0.0906[tCO₂/GJ] (※ 計測値で算出されることから、想定排出削減量の算定にはデフォルト値を使用する)

・Q個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料の重量 (dry-ton/年)
 ・GCV個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料の単位発熱量 (GJ/dry-ton)
 ・CEF個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料のCO₂排出係数 (tCO₂/GJ)

◆各化石燃料の重量: Q個燃_i (dry-ton/年) (1: オイルコークス、2~n: 石炭)

◇ Q個燃₁ = Q個燃₁(湿) [ton/年] × (1 - WCF個燃₁)

◇ Q個燃₂ = Q個燃₂(湿) [ton/年] × (1 - WCF個燃₂)

...

◇ Q個燃_n = Q個燃_n(湿) [ton/年] × (1 - WCF個燃_n)

・Q個燃_i(湿) 林地残材によって代替された各化石燃料の重量 (水分含む) (ton/年)

・WCF個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料の含水率 (0 < WCF個燃_i < 1)

(※ 石炭の特性 (含水率、炭素含有率等) は入荷毎に異なることが想定されるため、それぞれ異なるパラメータ (i: 2~n) として算定することとした。よって、nはプロジェクトを実施して初めて判明する値である。)

◆各化石燃料の重量 (水分含む): Q個燃_i(湿) (ton/年) (1: オイルコークス、2~n: 石炭)

◇ Q個燃₁(湿) [ton/年] = Q全燃(湿) [ton/年] × W個燃₁

◇ Q個燃₂(湿) [ton/年] = Q全燃(湿) [ton/年] × W個燃₂

...

◇ Q個燃_n(湿) [ton/年] = Q全燃(湿) [ton/年] × W個燃_n

・Q全燃(湿) 林地残材によって代替された化石燃料の総重量 (水分含む) (ton/年)

・W個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料の割合 (Σ W個燃_i = 1)

◆各化石燃料の単位発熱量: GCV個燃_i (GJ/dry-ton) (1: オイルコークス、2~n: 石炭)

◇ GCV個燃₁ = GCV個燃₁(湿) [GJ/ton] / (1 - WCF個燃₁)

◇ GCV個燃₂ = GCV個燃₂(湿) [GJ/ton] / (1 - WCF個燃₂)

...

◇ GCV個燃_n = GCV個燃_n(湿) [GJ/ton] / (1 - WCF個燃_n)

・GCV個燃_i(湿) 林地残材によって代替された各化石燃料の単位発熱量 (水分含む) (GJ/ton)

◆各化石燃料のCO₂排出係数: CEF個燃_i (tCO₂/GJ) (1: オイルコークス、2~n: 石炭)

◇ CEF個燃₁ = (Q個燃₁(湿) [ton/年] × C個燃₁ × 44/12) / (Q個燃₁[dry-ton/年] × GCV個燃₁[GJ/dry-ton])

◇ CEF個燃₂ = (Q個燃₂(湿) [ton/年] × C個燃₂ × 44/12) / (Q個燃₂[dry-ton/年] × GCV個燃₂[GJ/dry-ton])

...

◇ CEF個燃_n = (Q個燃_n(湿) [ton/年] × C個燃_n × 44/12) / (Q個燃_n[dry-ton/年] × GCV個燃_n[GJ/dry-ton])

・C個燃_i 林地残材によって代替された各化石燃料の炭素含有率 (0 < C個燃_i < 1)

3-1. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

【燃費法を適用】

◆林地残材の車両運搬に伴うプロジェクト排出量:PE運,化,y(tCO₂/年)

$$= \sum PE_{運,化,車,y}$$

$$= 9.306[tCO_2/年]$$

◆各運搬車両の年間CO₂排出量:PE運,化,車,y(tCO₂/年)

$$= \sum (D_{運,車,y} [km] / AFC_{運,化,車,y} [L/km] \times GCV_{運,化,車,y} [GJ/L] \times CEF_{運,化,車,y} [tCO_2/GJ] \times \text{補正係数})$$

$$= 9,000[km/年] / 4.79 [L/km] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ] \times 1.0$$

$$+ 3,600[km/年] / 2.51 [L/km] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ] \times 1.0$$

$$+ 240[km/年] / 3.09 [L/km] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ] \times 1.2$$

$$+ 180[km/年] / 2.89 [L/km] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ] \times 1.2$$

$$+ 180[km/年] / 3.09 [L/km] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ] \times 1.2$$

$$= 4.924 + 3.759 + 0.244 + 0.196 + 0.183$$

$$= 9.306$$

- D_{運,車,y} 林地残材の運搬による各運搬車両の年間往復走行距離(km)
- AFC_{運,化,車,y} 各運搬車両(車種ごとでも可)の平均燃費(km/l)
- GCV_{運,化,車,y} 各運搬車両で使用される化石燃料の単位発熱量(GJ/重量単位or GJ/体積単位)
- CEF_{運,化,車,y} 各運搬車両で使用される化石燃料のCO₂排出係数(tCO₂/GJ)
- 補正係数 平均燃費デフォルト値の場合:1.2(推定誤差を補正するため)
実燃費の場合:1.0

◇D_{運,1,y}

$$= D_{運,1,回,y} [km/回] \times N_{運,1,y} [回/年] = 60[km/回] \times 150[回/年] = 9,000[km/年]$$

◇D_{運,2,y}

$$= D_{運,2,回,y} [km/回] \times N_{運,2,y} [回/年] = 60[km/回] \times 60[回/年] = 3,600[km/年]$$

◇D_{運,3,y}

$$= D_{運,3,回,y} [km/回] \times N_{運,3,y} [回/年] = 60[km/回] \times 4[回/年] = 240[km/年]$$

◇D_{運,4,y}

$$= D_{運,4,回,y} [km/回] \times N_{運,4,y} [回/年] = 60[km/回] \times 3[回/年] = 180[km/年]$$

◇D_{運,5,y}

$$= D_{運,5,回,y} [km/回] \times N_{運,5,y} [回/年] = 60[km/回] \times 3[回/年] = 180[km/年]$$

- D_{運,車,回,y} 林地残材の運搬による各運搬車両の1回あたりの往復走行距離(km/回)
- N_{運,車,y} 各運搬車両の年間運搬回数(回)

3-2. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

◆林地残材の事前処理に伴うプロジェクト排出量(軽油):PE事,化,y(tCO₂/年)

$$= FC_{事,化,y} [L/年] \times GCV_{事,化,y} [GJ/L] \times CEF_{事,化,y} [tCO_2/GJ]$$

$$= 3,493[L/年] \times 0.0382[GJ/L] \times 0.0686[tCO_2/GJ]$$

$$= 9.15[tCO_2/年]$$

- FC_{事,化,y} 林地残材の事前処理による年間化石燃料消費量(重量単位/年 or 体積単位/年)
- GCV_{事,化,y} 当該化石燃料の単位発熱量(GJ/重量単位or GJ/体積単位)
- CEF_{事,化,y} 当該化石燃料のCO₂排出係数(tCO₂/GJ)

◆林地残材の事前処理による年間化石燃料消費量:FC事,化,y(L/年)

$$= FC_{事,化,y,all} [L/年] \times BFC_{材,y} [ton/年] / BFC_{全,y1} [ton/年]$$

$$= 44,000 [L/年] \times 1,100[ton/年] / 13,856[ton/年]$$

$$= 3,493[L/年]$$

- FC_{事,化,y,all} 破碎設備稼働のための総軽油使用量(L/年)
- BFC_{全,y1} 1破碎設備で処理した木材全量(林地残材以外も含む)(ton/年)

3-3. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

◆林地残材の事前処理に伴うプロジェクト排出量(電気):PE事,電,y(tCO₂/年)

$$= EC事,電,y [MWh/年] \times CEF電力[tCO_2/MWh]$$

$$= 11.47 [MWh/年] \times 1.241[tCO_2/MWh]$$

$$= 14.23 [tCO_2/年]$$

•EC事,電,y 林地残材の事前処理における年間電力消費量(MWh/年)

•CEF電力 自家発電電力のCO₂排出係数(tCO₂/MWh)

※オイルークスの排出係数(保守性の観点から使用燃料の中で最も高い排出係数を使用する)

◆電力の排出係数:CEF電力(tCO₂/MWh)

$$= Q燃 [ton] \times (GCV個燃,1 [GJ/ton] \times CEF個燃,i [tCO_2/GJ]) / EG事,電,y [MWh]$$

$$= 85,666.91[ton] \times (35.6[GJ/ton] \times 0.0931[tCO_2/GJ]) / 228,723.73 [MWh]$$

$$= 85,666.91[ton] \times 3.31436 [tCO_2/ton] / 228,723.73 [MWh]$$

$$= 1.241 [tCO_2/MWh]$$

•Q燃 自家発電に使用されるCO₂を排出する燃料の総重量(ton)

•EG事,電,y 自家発電による発電量(MWh)

※ 228,727.73 MWh(平成20年上半期実績)

◆Q燃[ton]

$$= Q燃,1 [ton] + Q燃,2 [ton] + Q燃,3 [ton]$$

$$= 79,096.80[ton] + 5,683.11[ton] + 887.00[ton]$$

$$= 85,666.91[ton] \quad ※(平成20年上半期実績)$$

•Q燃,1 石炭使用量[ton]

•Q燃,2 石油ークス使用量[ton]

•Q燃,3 RPF燃料使用量[ton]

※平成20年上半期実績データを使用

$$\diamond Q燃,1[ton] = Q全燃[ton] \times W燃,1$$

$$\diamond Q燃,2[ton] = Q全燃[ton] \times W燃,2$$

•Q全燃 石炭及び石油ークスの合計使用量[ton]

•W燃,1 合計使用量に占める石炭の割合(W燃,1+W燃,2=1)

•W燃,2 合計使用量に占める石油ークスの割合

◆GCV個燃,1[GJ/ton]×CEF個燃,i(tCO₂/GJ) = 3.31436 [tCO₂/ton]

保守性の観点から一番高い値を採用する。

一般炭 26.6GJ/ton × 0.0906tCO₂/GJ = 2.40996 tCO₂/ton

石油ークス 35.6GJ/ton × 0.0931tCO₂/GJ = 3.31436 tCO₂/ton

※単位発熱量、排出係数は、J-VERモニタリング方法ガイドライン(ver1.0) II-41の数値を使用

RPF燃料 1.57 tCO₂/ton

※ 排出係数は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル II-64 を使用

(石油ークス)3.31436[tCO₂/ton] > (一般炭)2.40996[tCO₂/ton] > (RPF)1.57[tCO₂/ton] となり、
よって (石油ークス)3.31436[tCO₂/ton]を採用する

◆林地残材の事前処理による年間電力消費量:EC事,電,y(MWh/年)

$$= EC事,電,y,all [MWh/年] \times BFC材,y[ton/年] / BFC全,y2[ton/年]$$

$$= 432.28 [MWh/年] \times 1,100[ton/年] / 41467.32[ton/年]$$

$$= 11.47 [MWh/年]$$

•EC事,電,y,all 破碎設備稼働のための総電力使用量(MWh/年) ※平成20年上半期実績データを使用

•BFC全,y,2 2次破碎設備で処理した木材全量(林地残材以外も含む)(ton/年) ※平成20年上半期実績データを使用

n

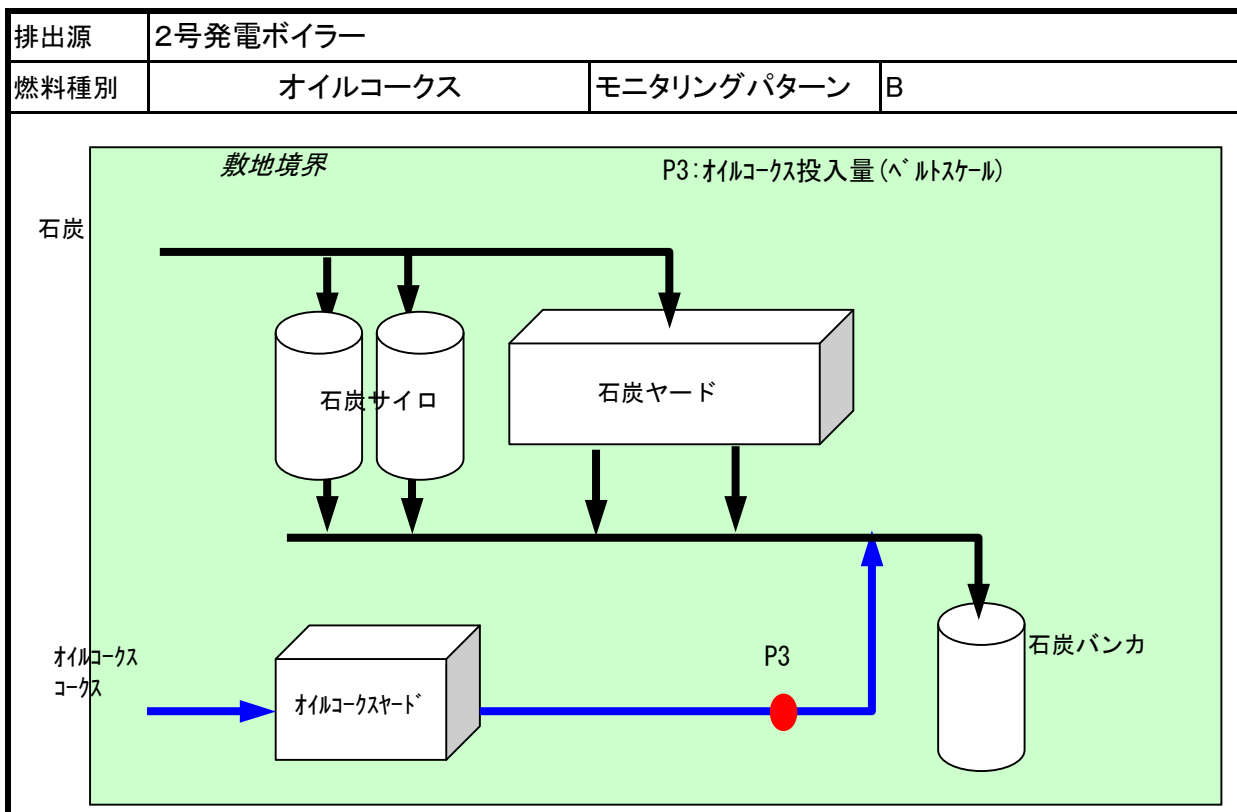
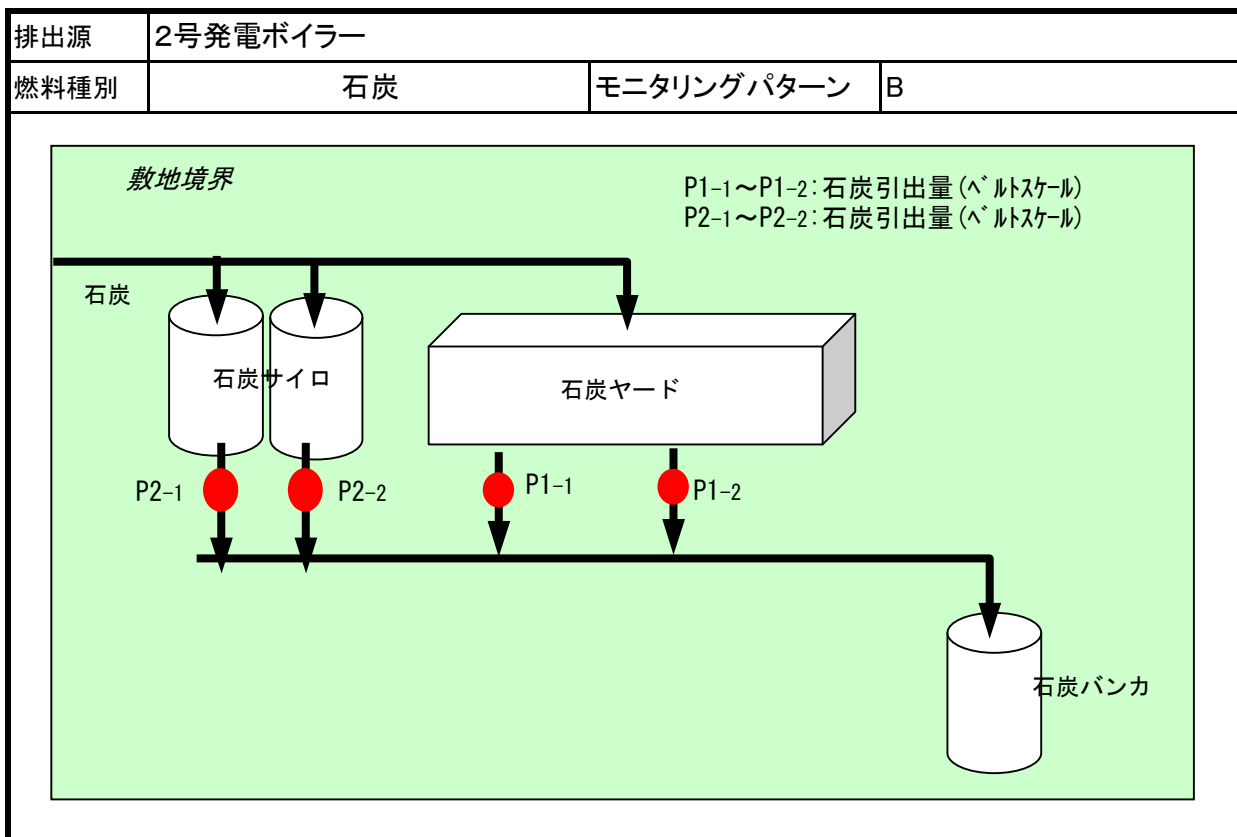
※欄が足りない場合は適宜欄を追加して記入すること。

Ⅲ. モニタリング詳細－活動量－(方法論項目7)

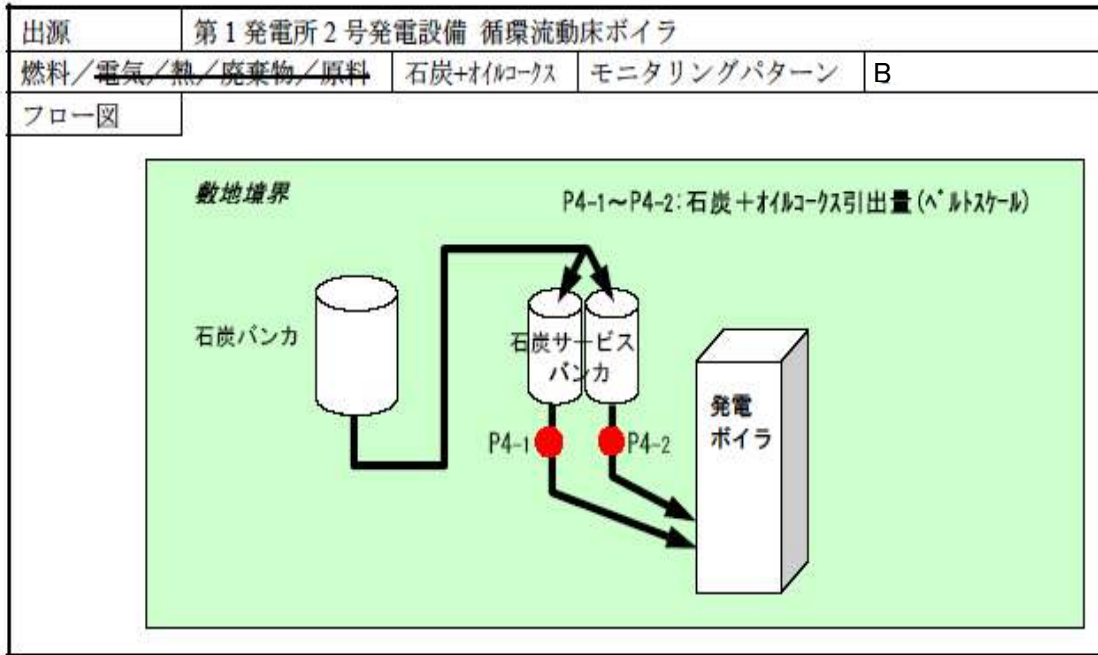
モニタリングポイントNo	パラメータ	燃料種別	測定方法	モニタリングパターン	測定頻度	自社管理計量器の使用			精度レベルの確認	計画値[単位]	備考
						計量器の種類	計量器の精度管理	計量器の有効期限			
			測定方法・データ把握方法を記入	A～Cより選択	測定頻度を記入	自社管理計量器を使用している場合、計量器の具体的な種類を記入	計量器の検定有無や定期検査等に関する情報を記入	計量器の有効期限を記入	モニタリング報告ガイドライン(1.3精度確保について)を参照し、要求精度レベルと自己精度レベルを確認	想定排出削減量の算定に使用した値を記入	特筆すべき事項があれば記入
P5	BFC材,y	バイオマス(固体)	自社管理計量器にて把握する	B:実測	入荷毎	トラックスケール クボタ製	校正頻度 年1回	2009/6	○	1,100t	林地残材量
P4	Q全燃(湿)	一般炭+石油コークス	自社管理計量器にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール 大和製衡 p=FB811A,B	校正頻度 年1回	2009/4	○	-	化石燃料の総重量
P3	W個燃,1	石油コークス	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール 安川電機製作所 n=BC704	校正頻度 2年1回	2009/12	○	-	石油コークスの化石燃料総重量に占める割合
P1,P2	W個燃,2	一般炭	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール	校正頻度 2年1回	2009/12	○	-	石炭Aの化石燃料総重量に占める割合
	...	一般炭	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	長浜製作所 n=BC703A～D ベルトスケール		2009/12	○	-	石炭Iの化石燃料総重量に占める割合
	W個燃,n	一般炭	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	クボタ n=BC751A,B		2009/12	○	-	石炭Xの化石燃料総重量に占める割合
D運,1回,y	軽油	山土場からの距離をgoo地図ルートガイドで検索算定	C:概算	現地決定毎				○	60km/回		平均輸送距離(往復)
D運,2回,y	軽油	山土場からの距離をgoo地図ルートガイドで検索算定	C:概算	現地決定毎				○	60km/回		平均輸送距離(往復)
D運,3回,y	軽油	山土場からの距離をgoo地図ルートガイドで検索算定	C:概算	現地決定毎				○	60km/回		平均輸送距離(往復)
D運,4回,y	軽油	山土場からの距離をgoo地図ルートガイドで検索算定	C:概算	現地決定毎				○	60km/回		平均輸送距離(往復)
D運,5回,y	軽油	山土場からの距離をgoo地図ルートガイドで検索算定	C:概算	現地決定毎				○	60km/回		平均輸送距離(往復)
N運,1,y	軽油	工場に運び込まれる回数をトラックスケール計量回数で測定	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製			○	150回		年間輸送回数
N運,2,y	軽油	工場に運び込まれる回数をトラックスケール計量回数で測定	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製			○	60回		年間輸送回数
N運,3,y	軽油	工場に運び込まれる回数をトラックスケール計量回数で測定	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製			○	4回		年間輸送回数
N運,4,y	軽油	工場に運び込まれる回数をトラックスケール計量回数で測定	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製			○	3回		年間輸送回数
N運,5,y	軽油	工場に運び込まれる回数をトラックスケール計量回数で測定	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製			○	3回		年間輸送回数
P8	AFC運,化,1,y	軽油	月総走行距離、及び、軽油給油量より平均燃費を算出	B:実測	1ヶ月間のモニタリング	車両メーター 購買伝票			○	4.79km/L	平均燃費
	AFC運,化,2,y	軽油	月総走行距離、及び、軽油給油量より平均燃費を算出	B:実測	1ヶ月間のモニタリング	車両メーター 購買伝票			○	2.51km/L	平均燃費
	AFC運,化,3,y	軽油	デフォルト値を使用	C:概算	デフォルト値				○	3.09km/L	最大積載量8,000～9,999kgの車両のデフォルト燃費
	AFC運,化,4,y	軽油	デフォルト値を使用	C:概算	デフォルト値				○	2.89km/L	最大積載量10,000～11,999kgの車両のデフォルト燃費
	AFC運,化,5,y	軽油	デフォルト値を使用	C:概算	デフォルト値				○	3.09km/L	最大積載量8,000～9,999kgの車両のデフォルト燃費
P7	FC事,化,y,all	軽油	(株)ダイキョウが購買量により把握	A-1:購買量	月1回				○	44,000L	破碎設備での軽油使用量
P5	BFC全,y,1	バイオマス(固体)	トラックスケールで計測した合計値	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製	校正頻度 年1回	2009/6	○	13,856t	一次破碎設備で処理した木材全量(林地残材以外も含む)
P5	BFC全,y,2	バイオマス(固体)	トラックスケールで計測した合計値	B:実測	搬入毎	トラックスケール クボタ製	校正頻度 年1回	2009/6	○	41,467.32t	二次破碎設備で処理した木材全量(林地残材以外も含む)
P6	EC事,電,y,all	電力(自家発電)	自社管理計量器にて把握する	B:実測	月1回	電力量計 東洋計器	15年(製品寿命)	2022/7	○	432.28MWh	林地残材1t処理あたりの使用量として把握
P11	EG事,電,y	電力(自家発電)	自社管理計量器にて把握する	B:実測	1日1回	電力量計 富士電気システム FH3B-K16R	製品寿命2013/2	2013/2	○	228,727.73Mwh	自家発電による総発電量(検定番号08815)
P4	Q全燃	一般炭+石油コークス	自社管理計量器にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール 大和製衡 p=FB811A,B	校正頻度 年1回	2009/4	○	84,779.91t	化石燃料の総重量
P1,P2	W燃,1	一般炭	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール 長浜製作所 n=BC703A～D ベルトスケール	校正頻度 2年1回	2009/12	○	0.933	一般炭の化石燃料総重量に占める割合
P3	W燃,2	石油コークス	指示書にて把握する	B:実測	1日1回	ベルトスケール 安川電機製作所 n=BC704	校正頻度 2年1回	2009/12	○	0.067	オイルコークスの化石燃料総重量に占める割合
P5	Q燃,3	その他	自社管理計量器にて把握する	B:実測	入荷毎	トラックスケール クボタ製	校正頻度 年1回	2009/6	○	88t	自家発電に使用するRPF燃料の使用量

IV. モニタリングフロー図

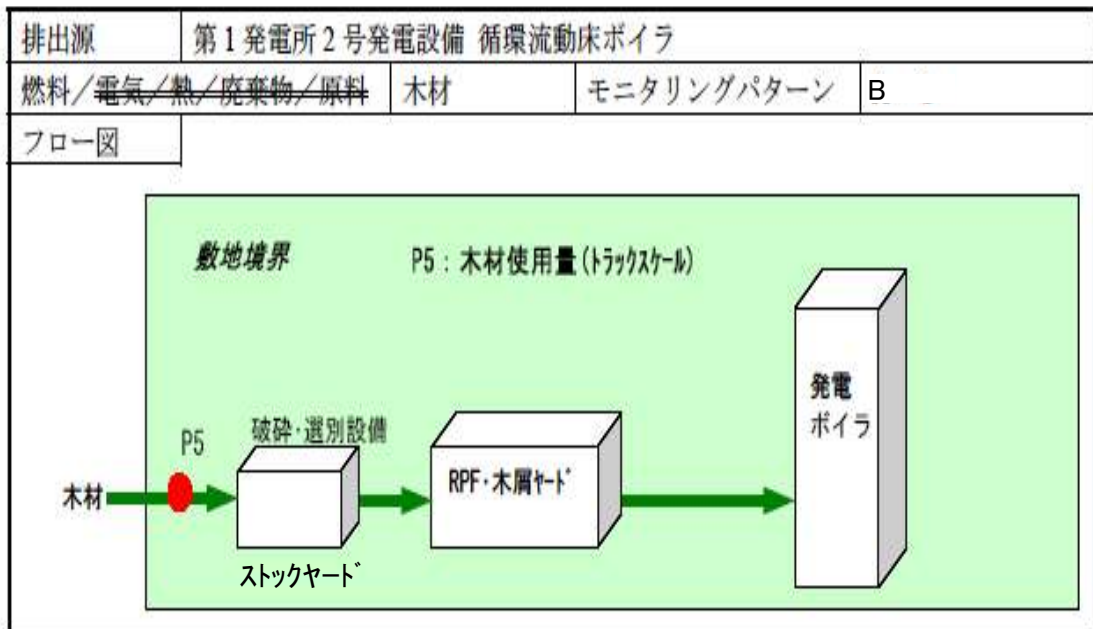
基準年度算定報告書で示した各排出源について、燃料、電力等の受入から消費までの流れを記載するとともに、各モニタリングポイントを明示する。



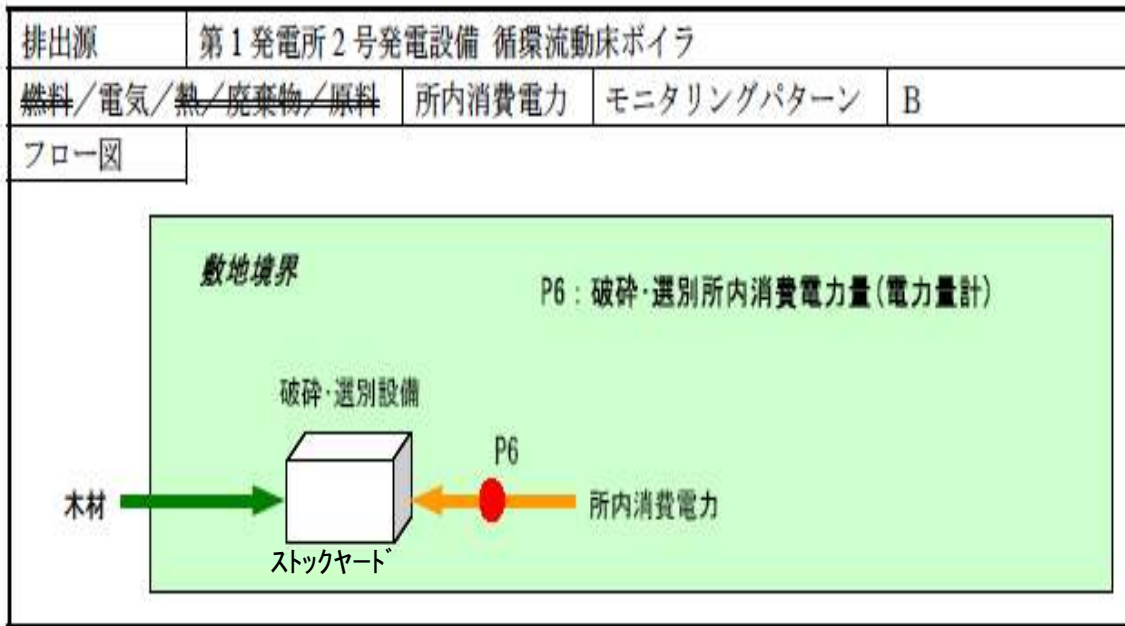
排出源	2号発電ボイラー		
燃料種別	石炭・オイルコークス	モニタリングパターン	B



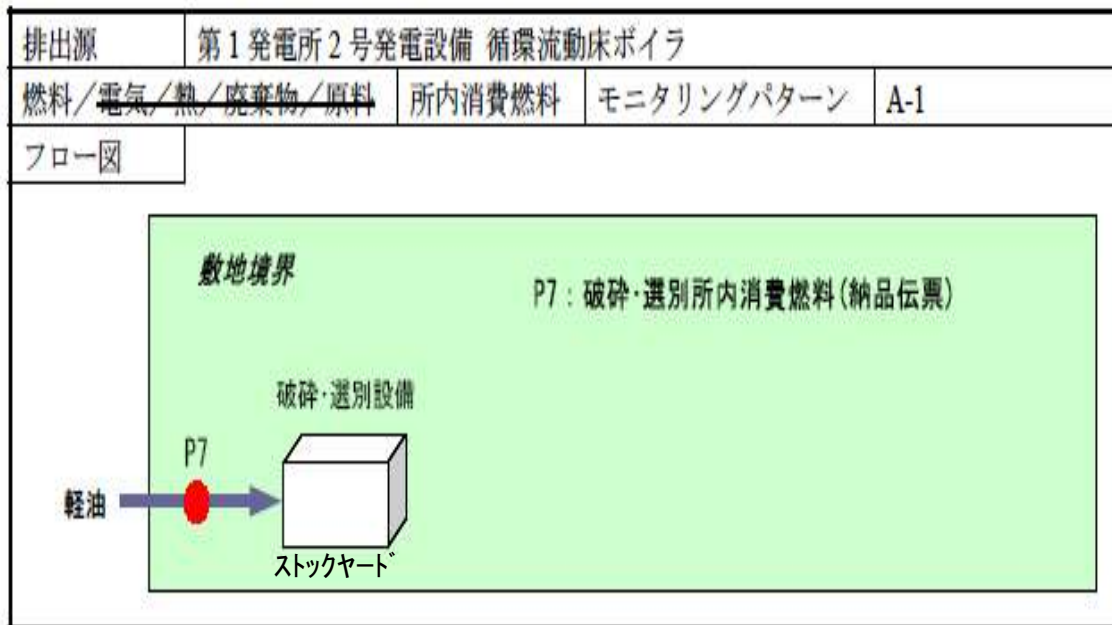
排出源	2号発電ボイラー		
燃料種別	未利用林地残材	モニタリングパターン	B



排出源	二次破碎設備(二次破碎機、振動篩、磁力、風力選別機)		
燃料種別	所内消費電力	モニタリングパターン	B



排出源			
燃料種別	二次破碎機、振動篩、磁力、風力選別機	モニタリングパターン	A-1



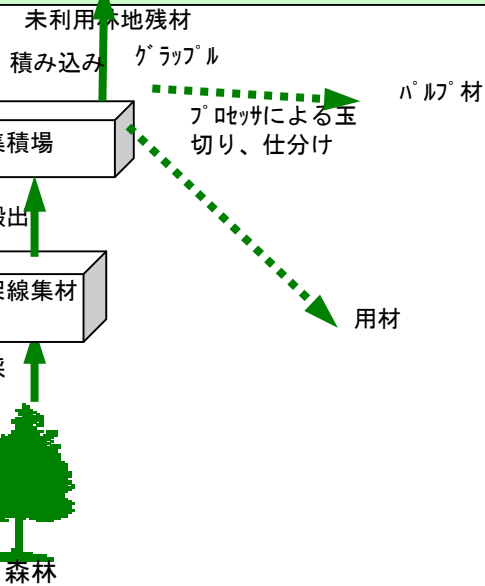
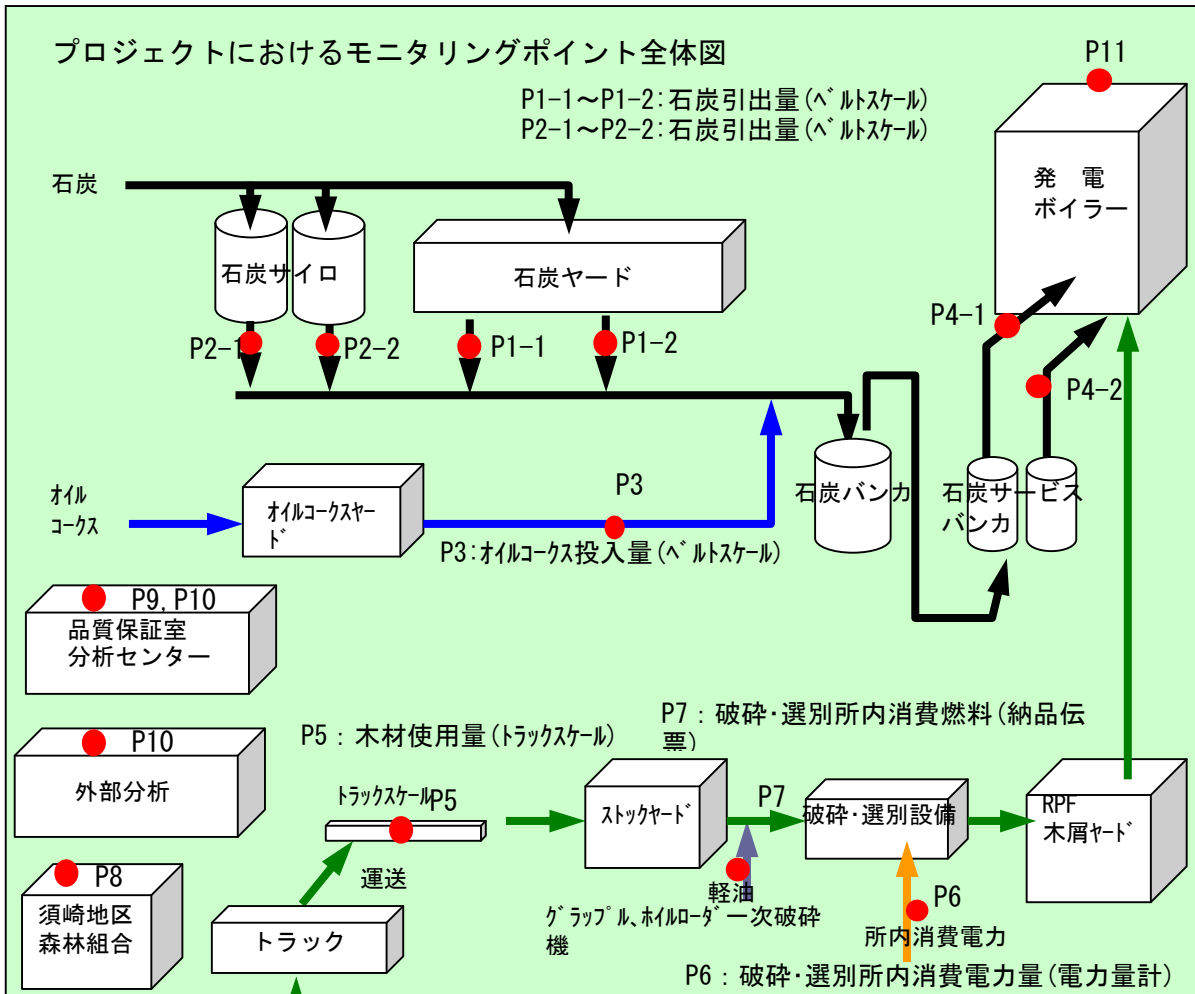
排出源	トラック(林地残材の運搬に使用する車両)		
燃料種別	軽油	モニタリングパターン	B
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポイントNo.: P8 ・使用頻度の多い車両2台については、1ヶ月間の走行距離、給油購買量を計測し平均燃費を算出。使用頻度の少ない車両についてはデフォルト値を使用 			
排出源	2号発電ボイラー		
燃料種別	林地残材	モニタリングパターン	-
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポイントNo.: P9 ・サンプルは粉碎直後に1/週頻度で採取2008.1まではSOC品質保証室で分析、2008.1以降はSOC分析センターで分析 			

排出源	2号発電ボイラー		
燃料種別	石炭+オイルコークス	モニタリングパターン	-
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポイントNo.: P10 ・外部分析委託及び高知県研究機関(高知県工業技術センター、高知県環境研究センター)に分析依頼 			

排出源	2号発電ボイラー		
燃料種別	石炭+オイルコークス+RPF	モニタリングパターン	-
<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングポイントNo.: P11 ・2号発電ボイラーの発電量 			

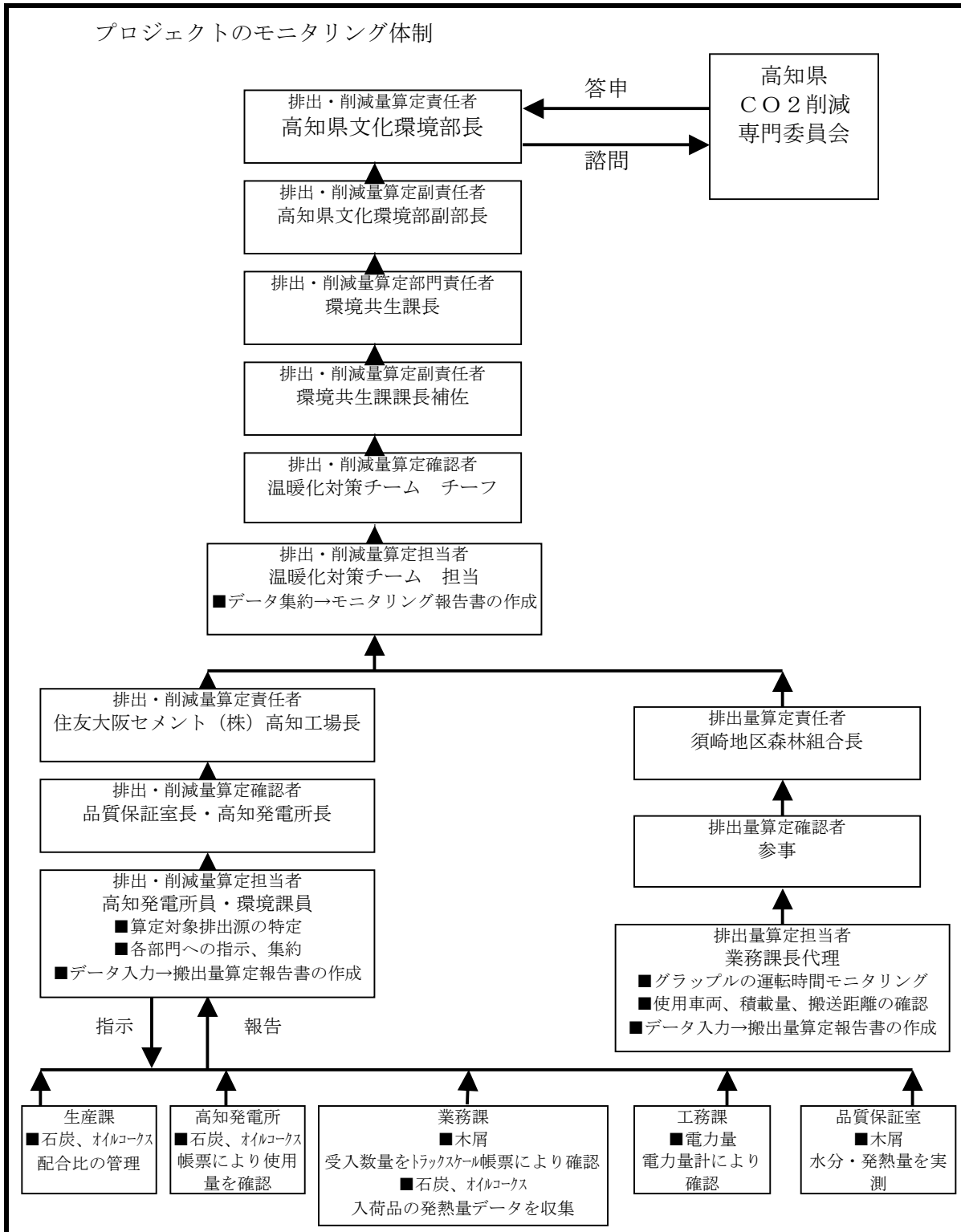
プロジェクトにおけるモニタリングポイント全体図

排出源		
燃料種別		モニタリングパターン



V. モニタリング体制図

モニタリング体制図を以下に記載すること。



VI. 備考

必要に応じて適宜使用する。